

### 3 .次世代ビジネスリーダー育成インターンを通じた大学生の起業活動への意識や動向の調査・分析

#### 3 - 1 .次世代ビジネスリーダー育成インターンの概要

平成19年8月7日から10日にかけて、京都大学・桂キャンパス・ローム記念館（京都市西京区京都大学桂）にて、京都大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（VBL）主催、株式会社ドリコム 共催および協賛各社【インテル株式会社、大和証券 SMBC 株式会社、株式会社 DeNA、株式会社ミクシィ、株式会社ワークスアプリケーションズ、株式会社リンクアンドモチベーション】により、日本全国の大学生・大学院生に、ビジネスの基礎から教え、ビジネスを立ち上げられるレベルにまで成長することを期待し、さらに事業創出の喜びを実感してもらい、将来の起業意識を高めることを目的に、参加者同士で競い合うグループ対抗のビジネスコンテスト「次世代ビジネスリーダー育成インターン」を実施した。

全国の大学生・大学院生を対象にオンライン上で参加者を募集し、募集期間（平成19年6月1日から7月27日）までに1096人からの応募があった。エントリーされた大学生数としては、慶應義塾大学からの129人が最も多く、次いで京都大学から112人、早稲田大学から110人であり、京都大学・桂キャンパスの開催にもかかわらず、日本全国の大学から大学生・大学院生のエントリーが集まり、書類審査により残ったチームおよび個人、合わせて約100名が4日間の合宿に参加した。

合宿期間中には、「勉強会」としてそれぞれの新進気鋭の講演者により、新規事業立案、事業戦略立案、ファイナンスの3つの講義を受け、どのようにビジネスを組み立てていくのかを学び、すぐに活用するための課題が出題された。その課題をクリアするため「グループワーク」と「資料作成」によるディスカッションを繰り返し、また合宿形式により昼夜を問わず、各グループでディスカッションをし、プレゼンテーション資料までのフローと新規事業立案、事業戦略立案、ファイナンスの3つの授業フローを通じて、参加者に確かな知識としての定着を図った。また、ディスカッションの間、不明な点があれば近くにいるメンター（大和証券 SMBC 株式会社、株式会社ワークスアプリケーションズの2社から、毎日3名）に相談ができる体制により、各所で活発なディスカッションが行われた。

第3日目には各ブロック（約10チームの3ブロック）ごとによる予選プレゼンテーションが行われ、選ばれた6グループが決勝へと勝ち進み、第4日目（最終日）の決勝プレゼンテーションの後、審査会を経て、表彰式にて「最優秀賞」「VBL賞」「個人賞」が贈られた。

「最優秀賞」の事業プランとして、京都大学の学生3人で構成されたチーム「NOT FOUND」の「宇宙に祝う私の記念日」が選ばれ、優勝者グループには賞金100万円、1週間のスタンフォード大学への研修が贈呈された。またその内容は、結婚予定者などを対象に、人工衛星に名前を刻む権利を販売するプランであり、アメリカでは年間30~40本の衛星が打ち上げられており、その衛星オーナー企業と提携することにより、低コストで宇宙に結婚の記念を残すというアイデアであった。さらに1998年に、27万人の名前を刻印したプレートが人工衛星「のぞみ」で火星に打ち上げられた例などをあげ、宇宙へメッセージを送る関心は高く顧

客は十分に見込めると発表した。

「VBL賞」には、京都大学、関西大学、立命館大学で構成されたチーム「脳みそ」の「思い出レスキュー」というプランが選ばれた。思い出が詰まったぬいぐるみなど、捨てるに捨てられないものを引き取り、それぞれにストーリーを作って持ち主の思い出を演出するという企画で、審査員から非常にエモーショナルな商品であり、着眼点が優れていたことなどが伝えられた。

その他、決勝では一人暮らしの老人向けのシェアハウス運営の事業や、老人ホームで文化講座を開く「老人ホーム大学」事業、携帯電話を使ったモバイルチラシ事業、個人の駐車場を期間限定で開放するコインレス・パーキング事業などの4プランが発表された。また、経営者としての資質。ビジネスリーダーとしての資質、アドバイスを的確に受け、すぐに吸収し、実行力もある者を判断された2名（当初は1名のところ）が「個人賞」を受賞した

### 3 - 2 . 次世代ビジネスリーダー育成インターンでの審査結果

予選プレゼンテーション(第3日目【8/9】)を勝ち抜いた6プランに対して決勝プレゼンテーション(第4日目【8/10】)が行われ、松重 和美(京都大学副学長・VBL施設長)、松本 英一(京都大学VBLスペシャル・プロジェクト・アドバイザー)、水田 道男(株式会社リンクアンドモチベーション モチベーションマネジメント・ウエスト事業部 事業部長)、多賀 谷実(日本ベンチャーキャピタル株式会社、京都大学国際融合創造センター 融合フェロー)、内藤 裕紀(株式会社ドリコム 代表取締役)の5名による審査員により、「最優秀賞」「VBL賞」「個人賞」の受賞プランおよび受賞者が決定され、同日の15時30分より、ローム記念館大ホールにて表彰式が開催された。

審査においては、全てのプレゼンテーション、ビジネスアイデアにおいて甲乙がつけがたく、談論風発であったため、すんなりと決まることはなかった。その中で最優秀賞では、審査員の中で最も話題となったこと、宇宙をビジネスの場と考えるという他プランにはない『壮大さ』を持っていること、技術的にまだ困難さが否めないが、財務計画が優れていたことなどが、その受賞理由となった。また最優秀賞の賞品でもあるスタンフォード留学権のことも考えると、このプランをもっと高めて、是非とも海外に持って行って欲しいとの願いもあった。「VBL賞」は、非常にエモーショナルな商品であり、着眼点が優れていたことなどが挙げられる。また「個人賞」は、経営者としての資質。ビジネスリーダーとしての資質、アドバイスを的確に受け、すぐに吸収し、実行力もある者を判断し(当初は1名のところ)、2名が受賞した。

#### 最優秀賞

チーム：NOT FOUND

プラン：宇宙に祝う私の記念日

増 井 健 人(京都大学教育学部2年)

松 田 一 樹(京都大学理学部2年)

中 栄 健 二(京都大学工学部4年)



京都大学VBL賞

チーム：脳みそ

プラン：思い出レスキュー

奥宮 太郎（京都大学医学部6年）

後明 寿枝（関西大学商学部3年）

桐里 青（立命館大学経営学部4年）



個人賞

城口 洋平（東京大学文科一類2年）チーム：F-pro

個人賞

飯田 悠司（東京大学経済学部3年）チーム：VIA TOOL



### 3 - 3 . 次世代ビジネスリーダー育成インターン実施日の様子

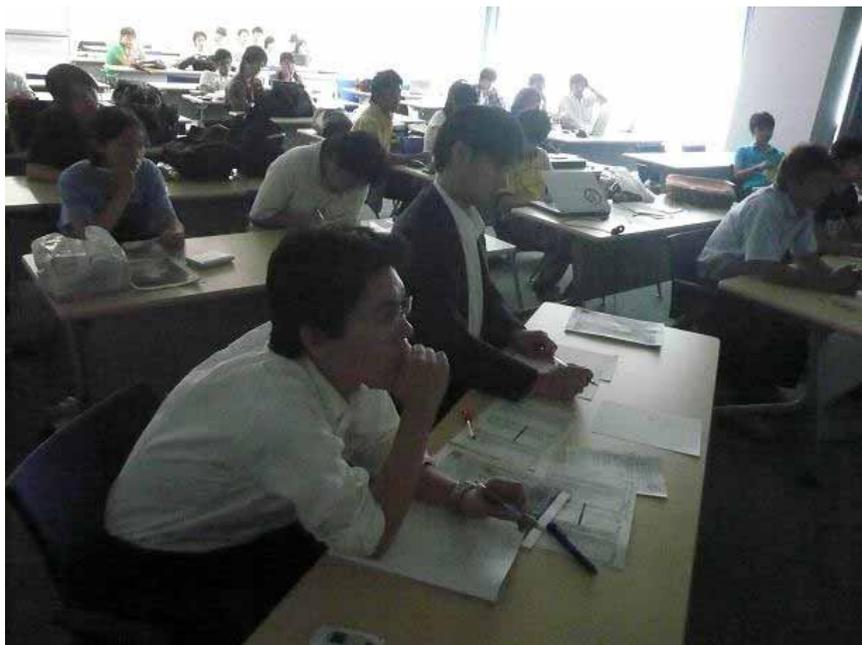
#### 【第1日目】

10 : 30	大ホール	集合
11 : 00	大ホール	ガイダンス
12 : 00	大ホール	講義 新規事業
13 : 00	各ブロック毎	昼食・グループワーク
14 : 30	各ブロック毎	グループワーク発表
16 : 00	大ホール	講義 事業戦略
17 : 00	各ブロック毎	グループワーク
18 : 30	各ブロック毎	グループワーク発表
20 : 00		解散



【第2日目】

10:00	大ホール	講義 ファイナンス
11:00	各ブロック毎	グループワーク (各自昼食)
12:30	各ブロック毎	グループワーク発表
14:00	大ホール	企業紹介タイム
16:30	各ブロック毎	予選グループワーク
20:00		解散



【第3日目】

10:00	各ブロック毎	集合 予選グループワーク 16時までに京都大学ローム記念館に移動
15:00		データ提出
16:00	各ブロック毎	ブロック発表 予選プレゼンテーション
20:00	京都市内	懇親会



【第4日目】

11:00	大ホール	集合
12:00	大ホール	昼食・決勝準備
13:00	大ホール	決勝
15:00	大ホール	審査
15:30		表彰
16:30		解散



### 3 - 4 . 次世代ビジネスリーダー育成インターンに関する広報・報道資料

#### 【募集案内ポスター】

主催：京都大学VBL  
共催：株式会社ドリコム

協賛：インテル株式会社 大和証券エスエムピーシー株式会社 株式会社ワークスアプリケーションズ  
株式会社ディー・エヌ・エー 株式会社リンクアンドモチベーション 株式会社ミクシィ

# 次世代ビジネスリーダー 育成インターン

## 優勝賞金100万円・スタンフォード大学研修権

熱い夢と希望を持った学生たちに私たちは何ができるだろうかと考えました。

それが、次世代ビジネスリーダー育成インターンです。企業講師を招きビジネスを基礎から教え、  
ビジネスプランを立案できるレベルにまで成長して頂きます。

全国から集まる「できるヤツら」に触発されて、脳ミソに汗をかかせて楽しみながら吸収できます。  
何も知らなくてもいい。これからできるようになればいい。

そして最後に参加者同士で競い合うビジネスプランコンテスト。  
後世に名を残し、語り継がれるヒーローが誕生してほしいと願っています。

熱い思いと、志をもった皆様の挑戦をお待ちしています。



- 応募資格 大学・大学院に所属する全ての学生が対象。
- 企画内容 エントリーシート審査後、3泊4日の合宿に参加して頂きます。新規事業、事業戦略、ファイナンスの講義とそれに関連するグループワークを行い知識の定着を図ります。その後、自分たちのプランを発表する予選と決勝が行われます。
- 賞品 優勝チームには以下の賞品を贈呈します。・賞金100万円 ・スタンフォード大学で1週間の研修
- エントリー方法 Jobwebのホームページからエントリーしてください。  
<http://intern.jobweb.jp/nextLeader> (Googleより「次世代ビジネスリーダー育成インターン」と検索でも可)
- 日程 1. エントリー：7月27日まで 2. 数日の審査後、参加者の発表 3. 8月7～10日の3泊4日(京大内および京都市内)の合宿
- 次世代ビジネスリーダー育成インターン運営委員会 企業担当事務局  
お問い合わせ先 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-23-23 恵比寿スクエア4F 株式会社ドリコム 社長室 加藤謙介  
03-5791-4555 kensuke.kato@drecom.co.jp

【オンライン受付】

「エントリー」 <http://intern.jobweb.jp/nextLeader>

次世代ビジネスリーダー  
育成インターン

主催：京都大学VBL 共催：株式会社ドリコム

協賛企業

intel 大和証券SMBC DeNA  
WORKS APPLICATIONS mixi LM

これから社会で活躍したいという熱い気持ちをもった学生たちが集まるには何ができるのかを考えてみましょう。それが可能なのはインターンシップです。

ビジネスの基礎から教し、ビジネス実習まで行われ、1年にもわたって実施されています。

今まで出会ったことがないようなビジネスの世界に触れ、ビジネスを身近に感じて想像力を駆使して行動させて、楽しみながら学べます。

興味があるという気持ちからできるような学びは、結果が待たせています。

そして、最後に参加者同士で競い合うグループ対抗のビジネスコンテストを開催。優勝に賞品も、講師陣が1対1で指導してほしく、そんな思いで参加しています。熱い思いと、志をもち参加者が続々と集まっています。

3泊4日の合宿形式！  
提携商品は100万円・スタンフォード大学研修権

8月7～10日の4日間を研修とビジネス実習を行うインターンです。  
研修日には賞金100万円とスタンフォード大学研修権が与えられます。  
インターンの4日間中3人以上参加すれば賞品も獲得できます。

ビジネスの基礎をプロから短期間で学ぶ  
最大のチャンス！

本インターンの目的は参加者の皆様にとっての基礎的なビジネススキルを習得するための場です。  
そのために、「研修期間」「実習期間」「コンテスト」の3つの研修プログラムをご用意しています。  
研修期間には、ビジネスの基礎から学び、ビジネス実習期間には、ビジネス実習を行います。  
コンテストでは、参加者同士で競い合うグループ対抗のビジネスコンテストを開催します。  
優勝に賞品も、講師陣が1対1で指導してほしく、そんな思いで参加しています。熱い思いと、志をもち参加者が続々と集まっています。

やる気と想像力にあふれる若者募集中！

応募資格は大学生・大学院生であること。  
そして、やる気と想像力にあふれていることのみ。  
ビジネスに関する知識はなくても大丈夫。  
1年生でも参加できます。学年ごとの関係はなし。  
とにかくやる気と想像力にあふれる若者を募集しています。

応募詳細

応募資格：  
大学生・大学院生、所属する大学の学生、研修は一泊二日  
形式で実施いたします。

目 的：  
2011年7月10日(土)～14日(水)まで4泊5日(5日間)研修  
場 所：  
京都大学 経済学棟  
※研修期間中からのご参加は、事前  
調整が必要となります。受講料は無料です。

賞 品：  
研修終了後に賞金100万円とスタンフォード大学研修権

エントリーはこちら

【報道】

京都大学 - トピックス -

[http://www.kyoto-u.ac.jp/cgi\\_build/back\\_number/2007.htm#200708161110150027](http://www.kyoto-u.ac.jp/cgi_build/back_number/2007.htm#200708161110150027)

◆2007年8月10日

日本最大規模の「次世代ビジネスリーダー育成インターン」を開催

次世代ビジネスリーダー育成インターンが8月7～10日の4日間にわたり、京都大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(VBL)主催、株式会社ドリコム共催、およびインテル株式会社等の協賛により、桂キャンパス・ローム記念館で開催されました。日本最大規模の1,096名の応募者の中から選ばれた101名が3人1組となり、専門講師による短期集中講義を受講し、レベルの高いグループワークを経て、新規のビジネスプランを練り上げました。最終日には選考された6グループを対象にビジネスプランコンテストが行われ、大勢の前でのプレゼンテーション、多くの専門家の鋭い質問への回答・応対などを総合的に判断し、グランプリ、VBL賞、個人賞がそれぞれ贈られました。

● [写真](#)

[http://www.kyoto-u.ac.jp/GAD/topic/data07/tpc070810\\_1/tpc070810\\_1.htm](http://www.kyoto-u.ac.jp/GAD/topic/data07/tpc070810_1/tpc070810_1.htm)





## 京大生チーム 優秀賞に選出

学生ビジネスプラン大会

京都大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(VBL)は十日、ビジネスプランを競う学生コンテスト「次世代ビジネスリーダー育成インターン」の優秀賞に京大生三人チームによる「宇宙に祝う私の記念日」を選んだ。結婚などの祝い事があった人を対象にしたビジネスで、人工衛星に名前を刻む権利を販売する。賞金百万円と米スタンプード大学での一週間研修権を与える。

「TVチャンピオン2・なでしこ礼儀作法王選手権チャンピオン日記」

<http://tv-champion2.jugem.jp/>

# 「いけず」に鍛えられ

「京都には(未公開企業に投資する)ベンチャーファンドもあります。また、京都に戻ってきて下さい」

内陸の京都は、港湾も空港もなく、物流機能が弱い。

起業家の育成支援などを手掛ける「京都大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(VBL)」は先月中旬、全国の学生が起業計画を競う催しを開いた。京都を大学発ベンチャーの拠点にする狙いだ。松重和美副学長(VBL施設長)は約100人の学生に、京都で

「京都には(未公開企業に投資する)ベンチャーファンドもあります。また、京都に戻ってきて下さい」

「京都流」の強さ

## 東京志向に危機感も



「京都で起業を」と学生に呼び掛ける松重・京大副学長一京大桂キャンパスのローム記念館で、松本杏撮影

サムコ、辻理社長」という状況を生んだ。他の地域をの源泉は、多種多様な起業家には「よそ者」も

「閉鎖的で排他的」とも

「京都で起業を」と学生に呼び掛ける松重・京大副学長一京大桂キャンパスのローム記念館で、松本杏撮影

「何々」という思いが、成功のばねになるという訳だ。

生らが創業し、昨年2月に東証マザーズに上場した下

### 3 - 5 . 大学生の起業活動への意識や動向に関するまとめ

今回開催した次世代ビジネスリーダー育成インターンでは、全国の大学生・大学院生を対象にオンライン上で参加者を募集したところ、募集期間(平成19年6月1日から7月27日)までに1096人も応募があり、ビジネス・起業に対する関心が非常に高いことがうかがえる。また、応募者を大学別に見ると、慶應義塾大学からの129人が最も多く、次いで京都大学から112人、早稲田大学から110人と続いており、京都大学・桂キャンパスの開催にもかかわらず、日本全国の大学から大学生・大学院生のエントリーが集まっていることから、起業活動への意識の高まりは全国的な広がりを見せており、それが本取り組みへの積極的な応募として目に見えるかたちで現れるようになってきたことがわかる。本取り組みは、単なるビジネスプランコンテストではなく、ビジネスプランの立案方法までのレクチャーを行うことにより本格的なビジネスプランを発案できるレベルまでに育成することに主眼を置いている。この点が、今回の多くの応募につながったのではないかと考えている。このように、ベンチャーに関心を寄せ、自らの今後のキャリアパスを模索し、新しいキャリアパスを創造しようとしている潜在的な若手人材が多くいることが改めて認識された。

今回のコンテストに入賞したビジネスプランは、宇宙をビジネスの場と考えるという他プランにはない『壮大さ』を有している、あるいは、非常にエモーショナルな商品を提案するなど、着眼点が優れ、全く新しい着想に満ち溢れている。これらを現実のビジネスにつながるように、そのビジネスプランをブラッシュアップしていくためのサポート体制の整備が重要である。

さらに、本調査・分析では、「今後、このようなコンテストを、どのように運営したらいいか、どうしたらもっと参加者が増えるか、より充実したものになるか」といった方策を探るために、参加した大学生・大学院生から意見・感想を聴取した。以下の通り、得られた回答を整理した結果を、以下に記す。

#### (1) 運営のしかたについて：

- ・ 事前に資料を渡したり、課題を与えたり、参考図書を提示したりした方がよい。(事前に、ホームページに資料を掲載して、ダウンロードできるなどの対応を行う。)
- ・ プレゼンテーションのしかたについても指導を充実させる。
- ・ ビジネスプラン作成のためのパソコンならびにネットワーク環境(無線LANなど)を十分に用意する。
- ・ 選択科目(回生不問の開講科目)として各大学のカリキュラムに組み込むことができないか。
- ・ 大学で経営に必要な基礎に関する講義・演習を行い、その実践の場として、コンテストを開催できないか。
- ・ コンテストの採点基準を事前に参加者に公開した方がよい。
- ・ 学校ブランドの商品やサービスを作ることを課題として与えるのも面白いのではないか。
- ・ コンテスト後の参加者の起業活動に対するサポート体制を整える。

(2)参加者募集の広報について：

- ・多くの大学（ないし大学生協）へ広報の協力（ポスター掲示）を要請する。
- ・文部科学省などの公的団体から協力を得る。
- ・ホームページを充実させ、参加者募集から事後報告まで一貫した広報を行う。
- ・事前に内容を詳しく説明しておいた方がよい。（参加前の期待を大きく上回る内容で大いに満足との声が多かった。）
- ・就職活動を控えた3回生や修士1回生の参加が多かったが、まだ就職活動を始めていない1, 2回生等への広報を拡充する。（今回は、コンテストの開催を、口コミで聞いて知ったケースが多かった。）

(3)その他：

- ・会場と宿泊場所が近い方が望ましい。（今回は、移動時間が長かった。）
- ・参加者同士交流できる機会があった方がよい。（今回は、スケジュールがタイトであった。ただ、密なスケジュールについても、参加者からは、寝る間を惜しんで作業に集中でき、貴重な経験になったという声が多く寄せられている。）
- ・参加者によるコミュニティーづくりへのサポートが望まれる。
- ・参加費・交通費・宿泊費の補助を充実させる。（今回は、協賛企業からのサポートにより、十分なサポートができた。）

これらのアンケート結果を、京都大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーで行っている起業教育プログラムに、フィードバックしたいと考えている。その方策としては、次の検討課題が挙げられる。

(1)「ビジネスプラン作成」、「プレゼンテーションのしかた」を授業(例えば、既存の講義「新産業創成論」)の内容に取り入れることの検討

(課題)講師の選定等において、外部機関(企業、官公庁、インキュベーション施設など)との連携が必要になる。

(2)文理融合型授業を単位認定することの検討

(課題)専攻・学科さらには部局を越えた単位認定を可能にする必要がある。

(3)経営に必要な基礎に関する講義・演習を行い、その実践の場としてコンテストを開催する授業を新たに導入することの検討

(課題)専攻・学科さらには部局を越えたカリキュラムの検討が必要になる。

(4)本コンテストを、集中講義として正規の授業として開講することの検討

(課題)専攻・学科さらには部局を越えたカリキュラムの検討が必要になる。

(5) インキュベーションマネージャーの京大VBLに配置する（インキュベーション施設など外部機関から派遣していただく）ことの検討

（課題）外部機関による協力（人材、費用など）が必要になる。

(6) 学生が集まり利用できるインフォーマルなコミュニティづくりの場を提供することの検討

（課題）スペース・設備、ならびに、世話人を確保することが必要になる。

今回の次世代ビジネスリーダー育成インターンは、京都大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（VBL）主催、株式会社ドリコム共催のもと、多くの協賛各社【インテル株式会社、大和証券 SMBC 株式会社、株式会社 DeNA、株式会社ミクシィ、株式会社ワークスアプリケーションズ、株式会社リンクアンドモチベーション】の協力を得て、産学連携の新しい枠組み（協力体制）で運営を行った。今回、このように、大学だけ、あるいは、企業だけでは実現困難な事業の運営体制として、1つのプロトタイプを提示することができたと考えている。今後も、このような産学連携の新しい枠組み（協力体制）も取り入れながら、さらに、起業家教育やベンチャー支援に関する新しい事業の立案・実行を推進していきたい。